

KUISs型まなびのしくみ

関西国際大学では、学生の能力を伸ばすための独自の仕組みがあります。

自分の意志を伝え、相手の考えを聞くこと

問題を発見して、考えること

その考えをもとに行動を起こすこと

予測不可能な時代に対応できる21世紀型市民としての見方や考え方が身につく秘密がここにあります。

4年間で身につけて欲しい6つの力・資質

関西国際大学ではグローバルな視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、安全や社会やコミュニティづくりに向けて、その力を総合的に活用できる人材の育成を教育の目的としています。そのために学生に身につけて欲しい6つの力・資質を定めています。



自律的で
主体的な態度
(自律性)



社会に能動的に
貢献する姿勢
(社会的貢献性)



多様な文化や
その背景を理解し
受け容れる能力
(多様性理解)



問題発見・
解決力



コミュニケーション
スキル



専門的知識・
技能の活用力

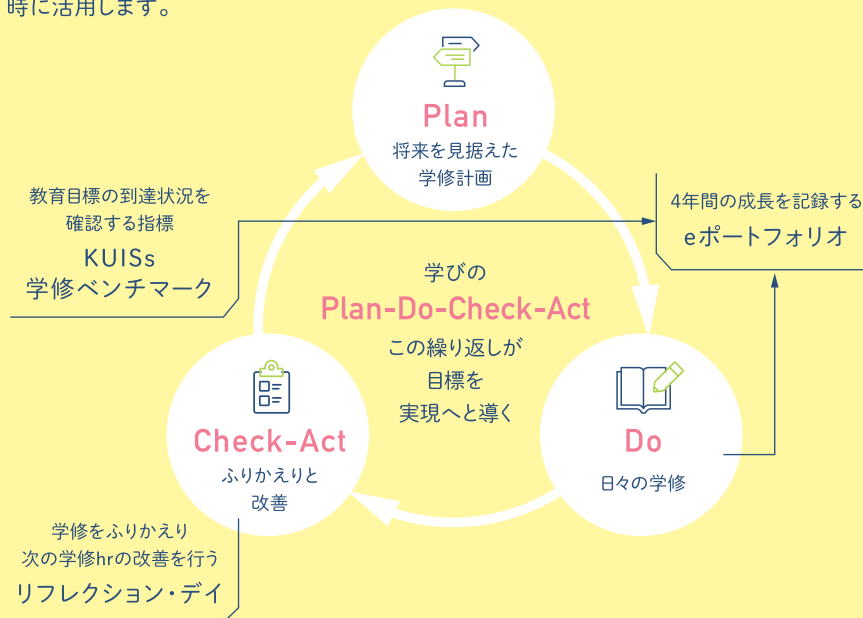
KUISs学修ベンチマーク

KUISs学修ベンチマークは、これらの力・資質の到達基準をしめたものです。【卒業時の達成目標：レベル3以上】詳しくはこちら▶



目標達成のための基本のしくみ

学生一人一人が、将来の目標に合わせて4年間の計画を立て、学期ごとや機会に応じて振り返りを行いながら、自身の学修計画を磨き上げていきます。また学期ごとに、KUISs学修ベンチマークの目標と活動予定を立て、学期後にどのくらい能力が身についたかレベルチェックを行います。入学時から卒業までの体験や行動、学修成果はeポートフォリオに記録し、この振り返り時に活用します。



POINT

学生はこのPDCAサイクルを繰り返すことで、主体的に考え、自身を客観的にとらえる力が身につくようになります。また、振り返り結果を手掛かりに、学修や生活の工夫改善を行いながら、社会で必要な力を修得していきます。



4年間のまなびイメージ

学期ごとや機会に応じて「基本のしくみ」を繰り返しながら、「評価と実践」で学生自身の自己評価能力も向上させる。
この「学びのしくみ」により学生は自律した学習者、そして自身の成長を自分のことばで語れる人材へと成長していきます。

本学の「学びのしくみ」の中核科目 **評価と実践**

- 大学や各学科の教育目標、評価に関する概念、評価方法について理解を深める。
- 学生自身がどのような知識や技術が身に付いているかを定期的に点検し、自己評価能力を高める。

- ◎自分の能力を客観的にとらえられる。
- ◎主体的に考え、目標や活動計画を立てられるようになる。
- ◎4年間の学習生活を充実させられる。
- ◎4年間の自分の学びを自分のことばで語ることができる。

評価と実践 I 到達目標【2年生終了時】

1. 教育目標に掲げる力・資質について説明できる
2. 評価方法や能力についてどう考えればよいか説明できる
3. P(計画)・D(実行)・C(チェック確認)・A(改善)サイクルについて説明できる
4. eポートフォリオなどを活用して学習を管理できる
5. 自分で目標を立てることができる
6. 目標達成のための計画を立てることができる
7. PDCAの考え方を自分の学習状況の点検に使える
8. 客観的に自分の今の状況を記述することができる



1年生

- 初年次教育
- キャリア教育(4年間)
- 課外活動(学生会・クラブ活動)
- 専攻の選択



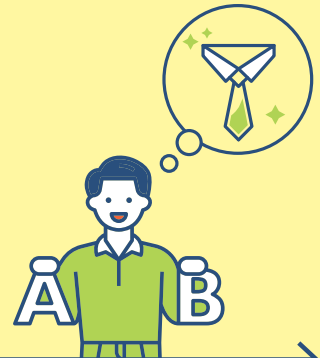
2年生

- 経験学習(海外・国内インターンシップ)
- 実習



3年生

- 実習
- 経験学習(海外・国内インターンシップ)
- 就職活動



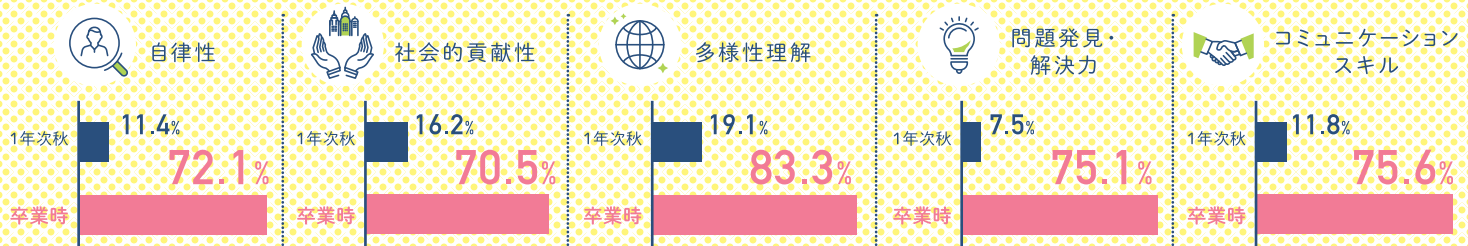
4年生

- 卒業研究

1. 教育目標に掲げる力・資質と自分の学習状況を関連づけて評価できる
2. 学修活動のゴールを意識した目標を立てることができる
3. PDCAに基づいて自分の今の状況とゴールまでの道筋を点検できる
4. エビデンスに基づいた自己PRを記述とプレゼンテーションで表現できる

評価と実践 II 到達目標【卒業時】

成長実感DATA 入学から卒業までの6つの資質・能力の変化(レベル3以上を達成した学生の割合)



※専門知識・技能の活用力は○○○により、総合的に評価するため掲載なし。